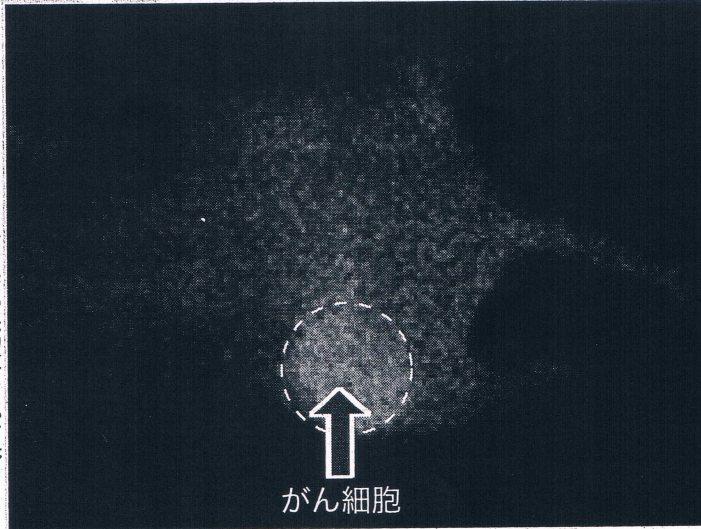


未来創造 N.プロジェクト がん治療 -4-

する治療法として登場し、がん化した部位が光ってこまで転移したのが「目」
たのが放射線療法や薬物 見え、手術の際、がんがどこで分かるようになる。
療法だ。

本学Nプロジェクト
医療班は、ナノテクノロジーを利用した新薬や放射線照射を組み合わせた新たな治療法の確立を目指している。核となるメンバーは7人。医学部の永瀬浩喜教授(生命科学)が中心だ。

がんに対する治療の原点である外科的手術には約100年の歴史がある。早期の段階で発見され、狭い範囲にとどまっ
ているがんには今なお有効な方法だ。しかしがん細胞は時間かたつと増殖し、体内の至る所に転移する。そうしたがんに対



マウスに移植したがん細胞が蛍光物質によって光る

永瀬教授らはマウスを合成に成功し、09年3月にはこの物質を特許申請している。使った実験で蛍光物質ががん細胞に付着し、問題はこの物質ががん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ

永瀬教授らはマウスを合成に成功し、09年3月にはこの物質を特許申請している。使った実験で蛍光物質ががん細胞に付着し、問題はこの物質ががん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ

X線・薬物でがん挑む

永瀬教授らはマウスを合成に成功し、09年3月にはこの物質を特許申請している。使った実験で蛍光物質ががん細胞に付着し、問題はこの物質ががん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ
ん細胞ではない細胞にも付着してしまふこと。ほ

池谷 円